

ほのぼの苑だより

題字：石沢 津也 様



本来、介護のイメージはこのようにあるべきです。
そして、全職員がこの写真のようにありたいと望み、日々の業務を行っております。



酒蔵見学

二月十七日、小玉醸造で行われる年に一度の「蔵開き」へ誕生者の方と出掛けてきました。時期的には天候が心配でしたが、当日は晴れ、案内人の説明に耳を傾けながら見学しました。

中に入ると、肌寒さには丁度良い甘酒と味噌汁の試食が行われており、体を暖めてからの見学となりました。味噌、醤油の蔵は明治十二年に創立され、壁はレンガに覆われていて、それぞれの蔵のドアは大きく厚みがあり、ここで一年六ヶ月間の天然醸造による完熟味噌が出来上がると思うと、伝統の奥深さを感じました。酒蔵に移動し、小玉醸造の方々とお酒の試飲、思わず顔が綻びる誕生者の方々。まずはお猪口に一杯・・・もう一杯、更にもう一杯と顔が程良くいい色になり、家族や自分へのお土産として、お酒を買っていました。出口では、ワンカップや味噌が出る頃には心も体も暖まり、苑に戻る車の中は笑い声で溢れていました。

(佐藤 真由美 記)

ほのぼの苑 ちよつとイイ話

「ほのぼの苑 ちよつとイイ話」
は、苑内での感動する話をご紹介します。
するコーナーです。

ちよつとイイ話

〜二月の業務日誌より〜

昨日は、介護福祉士国家試験の筆記試験が行われました。受験された皆さん、お疲れ様でした。来月には合格発表があり、「介護技術講習」の修了認定を受けている人以外の合格者は、三月に「実技試験」が待っています。

介護の分野は現在どんどん変わってきています。試験方法も変わり、試験の在り方自体も問われています。介護福祉士の質も問われ、介護福祉士制度を見直し、今後更に変わっていく予定ですが、その理想像や改善策の内容もまた問われている状況です。介護を職としている者にとっては落ち着かない状況ですが、歴史の浅い介護の分野を確立していくための段階なのだと思います。そして現在、介護福祉学構築に向け、論議されています。様々な議論がされている中、やはり現在現場で働いている介護職の皆さんの声が大事だと言われています。日々の業務で培われているものを理論にしていこうと、研究し、それを継続

していくことです。ロマンだけで介護が語られる時代から、エビデンスに基づく介護が求められる時代に移行していく過程で、私達には何が出来るのでしょうか。まずは難しく考えず、仕事に誠実に取り組み、そして自分はどういう介護をしたいのか、そのためにはどうすれば良いのか考える機会を作るようにしていきたいと思えます。

二月六日（火）

毎日のように面会に来て下さる家族の方がいます。忙しい中時間を作って来て頂き、その入苑者の方はとても幸せだろうなと感じます。忙しかったり、家が遠かったりとなかなか面会に来ることの出来ない方もいらつしやいますが、家族の方とお話している入苑者の方の表情を見るとやっぱり家族っていいなと思います。



二月九日（金）

いつも「帰りたい」が口癖の方が、今日は楽しかったと笑顔で過ごされておりました。今日は突然娘さんが来苑され、一時間ばかりでしたが外出されました。私達の一人一人に合ったケアも大事ですが、ご家族の方の協力も必要だと再度感じた一日でした。

二月十八日（日）

今日のニュースで、ある施設が檻の中に入れたり、両手を鉄の手錠で拘束したりしているのを見ました。とても衝撃的な映像で驚きました。日々忙しくはありますが、ほのぼの苑の入苑者の方々に入苑して良かったと思ってもらえるような毎日を送っていただきたいと思えます。

二月二十日（火）

今日おやつの時間にある入苑者の方とゆっくり話をしながら過ごしました。お家の事、子供さんたちの事や昔の話や自分の心配事など、色々な事を話して下さいました。私には経験がない事がたくさんで何か返してあげることが出来ず、ただ聞いてあげることしか出来ませんでした。最後には笑顔で「ありがとう」という言葉を頂き、感動してしまいました。これからも一人一人とゆっくり接する時間を少しでも見つけていけたらと思います。



第十一回 家族会 議事録

第十一回 家族会は、平成十九年二月二十五日(日)午後二時より、食堂にて行われました。ほのぼの苑だよりの誌面にて、質疑応答や意見交換に関する資料を掲載致しますので、ご参加頂けなかったご家族の皆さんもご覧ください。

四月の家族会は四月二十九日 午後二時から「予防給付について」のご説明を行います。お忙しい中とは存じますが、是非ご参加頂けるようご協力の程よろしく、お願い申し上げます。

◆グループ討議・意見交換の内容◆

- ・家族会に参加することで施設に対しての考え方が変わったし、介護施設に関する報道にも耳を傾けるようになった。
- ・家族からのご意見・ご要望だけではなく、職員からの家族への意見・要望はないですか。
- ・職員間の申し送りが徹底されていない時もあるように感じる。
- ・家族会でのグループ討議は、内容を絞って行うことで意見が多く出るのではないのでしょうか。
- ・入所して間もないのですが、最近家族の声かけにも反応が悪くなってきているので、声かけを多くしてコミュニケーションを取ってもらいたい。
- ・拘束は、入所者が怪我をしないためにも必要だし、家族はそれを理解しなければならぬ。
- ・ほのぼの苑は、色々な部屋があるが、職員も含め、家庭的でとても良い。
- ・全国的に介護者が減少しているようですが、介護そのものは大変なもので、家族はそれを理解した上でクレーム等を言わないといけないのではないのでしょうか。

(※一部抜粋)



幸福

春が近くなり、買い物に行くと華やかな色彩の洋服やバックがディスプレイされているのが目につくようになった。

私は、カラーアナリストの方からカウンセリングを受け、自分に似合う色を見て貰ったことがある。一人ひとりの微妙に違う肌や髪の色、瞳の色などで判断するのだ。いつも無難な色合いの洋服しか着ていなかった私は、似合う色がパステル調の色彩と聞き、意外でびっくりした。確かにそれ以外の色を身につけると顔色が悪く見える。

明るい色を身につけると元気になる。外国の高齢者は、歳をとっても派手な色合いの服を着こなし、元気でハツラツとしている印象を受けるのは、色のもつパワーだと思う。

最近の老健施設のユニフォームは、ピンク色が増えているという。当施設でも女性介護職員がそうだ。ピンク色には、人に安心感を与え、神経の高ぶりを静める作用があるらしい。ちなみに、医療関係者の殆どが白いユニフォームを身につけているが、清潔感や純粋さをイメージさせるが同時に冷たさ

や近寄りたいたい印象を与えるという。四月から心機一転、グレーのユニフォームから白衣を久々に着ることになったが、心はピンク色で頑張ろうと思う。

ポツリと一言

大寒波が押し寄せ、暴風雪警報や波浪警報が続き、あつという間に辺りは、白一色に変わってしまったが、今までが異常気象であり、本来の冬が遅れて訪れただけなのですが、変な感じがします。

平成十九年度を迎えるにあたり、事業所間での人事異動や新人職員の入職が始まっております。廊下に掲示されている職員顔写真も随時変更しておりますので、面会の際にどのような職員がいるのかご覧ください。

(カ)

発行



医療法人 正和会

介護老人保健施設 ほのぼの苑

〒018-1401

秋田県潟上市昭和久保字街道下 92-1

電話 018-877-7115 FAX 018-877-7481

ホームページ

http://www.seiwakai-akita-nol.or.jp/

編集責任者 加藤 稔樹

発行責任者 小玉 敏央